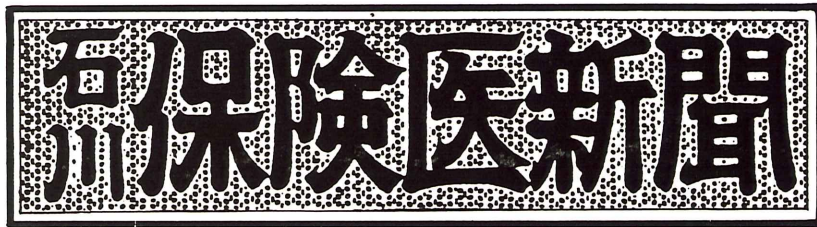


納涼特集号

本号は未入会の先生にもお送りしました。ご入会を心よりお待ちしております。



発行所
石川県保険医協会
金沢市尾張町1丁目9番11号
〒920 尾張町レジデンス2F
電話 (0762) 22-5373番
発行人 高松 弘明
印刷所 ユーアイ印刷



岐阜県郡上八幡いがわ小径

梅雨明けや
流れに群れる
こいの影

としお

写真／力丸 修 (金沢市・皮膚科)
俳句／栗野利雄 (金沢市・内科)

医心凡語

日本人の平均寿命は女性が八二・九八歳、男性が七六・五七歳で男女とも世界最高新記録を更新した。しかしながら長寿世界一を単純に喜んでばかりはいられないようだ。

六月に発表された一九九三年度の国民医療費は二十四兆三千六百三十一億円と、前年度に比べ三・八%の増加で、前年度分の伸び率七・六%に比べ大幅な鈍化となっているが、老人保健給付分は六・六%増で、全体に占める割合は二九・五%と三割に迫り、今後さらに増大することが予測されている。厚生省がとり続けてきた医療費抑制政策の結果、OECD(経済協力開発機構)加盟国の中で対GDP比で二十番目という極端に安い医療費で、長寿世界一を十年間も続ける「奇跡」がいかにして達成されたかは、賢明な諸兄には今さら説明することもないであろう。

中医協の審査、指導・監査小委員会が、指導大綱、監査要綱の見直しを提言し、指導・監査の強化が懸念されている。つい先日、本県でも二年に一度の厚生省の個別指導があり、立ち合いの先生より情報を得たが、対象医療機関の選定や自主返還の指示に関して、従来と異なり県保険課や医師会の意向が全く取り入れられず、一方的に行われたとのことであり、さらに一抹の不安を感じている。



(その14)

顎関節症 ③

江守道子 (金沢市・歯科)

前月号に続き、今回は咬合異常により引き起こされた顎関節症について報告します。

《症例Ⅱ》
《患者》二十三歳 男性
会社員

《主訴》
約二年前より頭痛があり、その後約半年前より頭痛がさらにひどくなったため、ある総合病院の

内科で受診している。鎮痛剤が切れてくると、頭痛が出るため紹介来院。

《現症》

左咬筋、左外側翼筋の圧痛がかなり著明で、開口から閉口に至る時、下顎がやや左側に偏位する。開口障害(三横指)がみられる。咬合、下顎がやや前方に出て、前歯部に叢生(ガタガタした

歯並び)がみられ、Ⅷ(親知らず)がみられる。ただし、残りの歯はいずれも半埋伏歯となっていて口腔内にはみられない。
《診断》
Ⅷと前歯部不正咬合による顎関節症
《解説》
Ⅷと上顎前歯部の不正咬合が原因となつて下顎運動(咀嚼)がうまく行えず、顎関節部に異常をきたしていると考えられる。
《治療》
原因となつているⅧをはじめすべての半埋伏歯の抜歯をした後、スプリント(マウスピースのようなもの)を入れて、下顎が自由に動くようにした。三週間ぐらいで咀嚼筋の圧痛はまだまだ残っていた。その後、スプリントの調整と歯牙の咬合調節(咬み合わせを良くするため)を繰り返し、あわせて歯の治療も行った。四ヵ月後に、頭痛もほぼおさまり、それに続き矯正治療を行う予定であったが、患者は調子が良くなったのか、最近来院しなくなった。内科へ問い合わせた所、同じく来院してないとのことだったので、現在は連絡待ちの状態である。

《訂正とお詫び》
七月十五日号本紙三面のこのコーナーで、次の誤りがありました。訂正し、お詫びいたします。
〇二段目の右から九行目
《誤》 76167
《正》 76167
〇二段目の左から八行目
《誤》 下顎前
《正》 下顎骨

会員数が七百八十九人と今年度の目標八百人まであと十一人、秒読みである。保団連の労作『戦後開業医の歴史』の普及・活用には年間通して努力したいが、まず理事者が読破する意欲から始めねばならない。グループ保険は目標達成率一〇五・六%とうれしいが、保険医年金利率はまさに厳冬時代だ。歯科部講演会「顎関節症」は医科会員も期待して応援しよう。医療従事者接遇講座は二会場とも八十人を超す盛況であった。協会の目玉事業の一つとして今後も取り組むたい。

第5回理事会点描

参議院立候補者にアンケートを実施

(7月4日、12人出席)

医療福祉活動の福祉施設見学会、老後問題を考える石川のつどいへの協力も継続事業として重要との認識が、地方都市で初めて、金沢で開催した保団連出版部会は、前日の「かつおきんや講演会」とセットで石川

中協小委員会報告によつて「審査、指導、監査」問題が再び全国的にクローズアップされ、公的介護保険構想と共に、来る保団連夏季学習会でも大論議を呼びそうだ。医政に関する共通認識であるから、わが協会でも今年度の重要課題として協議や提言をしていきたい。参議院選挙の立候補者に対して医療問題アンケートを送付し、回答を求めていることを付言する

(安藤 記)

1995年度版『病院マップ』完成!

会員の皆様には一冊無料でお送りします。

会員アンケートにご協力を!

保険医新聞のご愛読ありがとうございます。編集部ではより親しまれ、役立つ機関紙づくりをめざしております。皆様方のご意見・ご指導をお待ちしております。

(アンケート用紙は本紙に同封してあります)

顎関節症講演会のご案内

テーマ 顎関節症の診断と治療
講師 東京都墨田区開業 中沢勝宏先生
日時 8月27日(日) 午前9時半～午後4時
午前＝「顎関節症」総論 参加対象＝医師・歯科医師
午後＝「顎関節症」各論 参加対象＝歯科医師
会場 金沢勤労者プラザ
(金沢市北安江3-2-20 ☎0762-21-7771)
参加費 医科会員＝1,000円(午前中のみ)
歯科会員＝5,000円(昼食代含む)
未入会員＝10,000円()

◎お問い合わせは協会事務局まで ☎0762-22-5373

すいせんします

医学の原点と医療の本体をみる

森村誠一(作家)

戦後開業医運動の歴史

◎保団連創立25周年記念出版◎

医書の原典『医戒』に「病メル者ヲ見テコレヲ救ハムト欲スル情意、是即医師の由テ起ル所ナリ。他ノ為ニ生ジテ己レノ為ニセズ、是即医業ノ本体ナリ」と記述されている。我々患者が具合が悪くなれば、まず親の代からのかかりつけの医者、主治医(開業医)の許に駆け込む。開業医に対する患者は、医学を信じているのではなく、医者を信じているのである。その



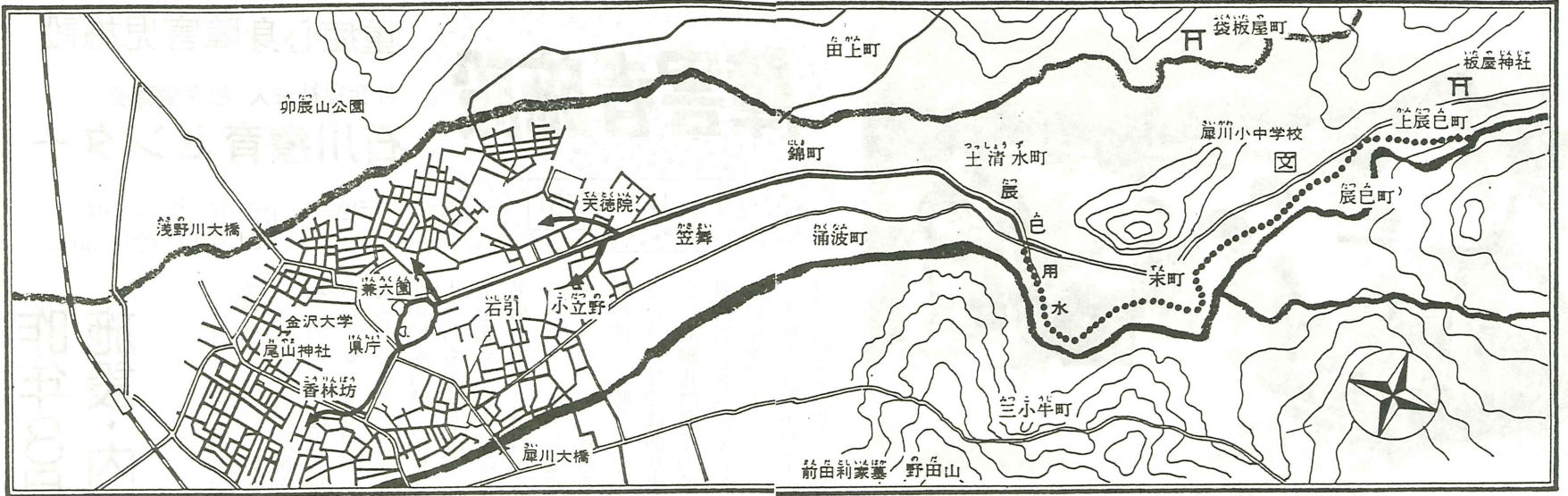
全国保険医団体連合会編

定価 7000円(税込)
保団連会員価格 5600円(税込)
('95年12月末まで)

A5版・上製・函入・920頁

労働旬報社

※お申し込みは協会まで



▲辰巳用水地図

かつおきんや著『辰巳用水をさぐる』より



会員や市民60人が参加して開かれた文化講演会 (7月1日、レポート兼六)

文化講演会

兼六園、辰巳用水、金沢城の歴史と今

かつおきんや氏を招き 辰巳用水について学ぶ

貴重な文化遺産を 未来にどう受け継ぐか

副会長 安藤 良一

七月一日、保団連出版部と石川協会の共催で「兼六園、辰巳用水、金沢城の歴史と今」講師かつおきんや氏の文化講演会を開催した。保団連出版部も参加して地元開業医や一般市民など聴衆約六十人と盛況であった。周知のごとく、梅花女子大学教授の勝尾金弥氏は金沢が生んだ高名な児童文学作家で、数々の受賞作品のほか多数の著書がある。郷土史とくに江戸末期の庶民生活やその戦闘史に詳しいが、近年は東洋、東南アジアのテーマにも取り組んでおられる。

講話は一五八三年、前田

利家の尾山城入城が始まる。二代藩主利長は内堀外堀をめぐらし城下町を構えるが、三代藩主利常にまたがる四十年間に度々の火災に遭う。利常は城内に防火用水の必要を痛感し、板屋兵四郎に命じて一六三二年、辰巳用水を造成する。これは当時の小立野台地の農業用水としても大いに役に立った。

一六七〇年代に藩主の庭園として兼六園が整備されたが、その後も一七〇〇年代の大火や大地震で城や庭の損壊が続いた。一八〇九年、十二代藩主斉広が二の丸の御殿を再建し、十三代斉泰のとき辰巳用水取入口の移動やトンネル工事が工

七月二日、金沢市兼六町の「レポート兼六」において、保団連出版部の本年度第一回部会が開かれた。部会が地方都市で開かれるのは初めてであり、前日は学習会を兼ねて、かつおきんや氏の文化講演を開いた。いずれの設営も石川協会が担当した。

部会出席は宇治出版部長以下部員七人、事務局員七人である。協議事項は、(一)前半期活動総括と当面の課題、(二)後半期の課題と、特集、連載企画などである。

夫され、この水路のおかげで城内や兼六園の体裁もようやく整った。石管を使ってサイフォンの原理を応用した噴水に成功したのもこのころである。しかし世は既に幕末であり、十四代二百八十年間君臨した前田百万石も終焉を迎える。

一八七〇年(明治三年)、金沢城は兵營にとつて代わった。その後の火災で二の丸御殿は焼失し、外堀も大部分が埋め立てられた。兼六園のみ一般公開されて一九二二年、「名勝」の指定を受ける。

辰巳用水は一九二六年に兼六園から天徳院間がパイプ埋め込みによる専用水路となり、金沢市上水道工事

と同時進行していく。終戦を経て一九四九年、金沢城跡には金沢大学が開校する。一九七五年、石川県は辰巳ダム建設計画を呈示。辰巳用水専用水路完成、兼六園入園有料化に続いて一九八九年、こうして金沢大学の角間地区移転が始まったのである。

以上の歴史変遷を、淡々と時には熱っぽく語り終えたのち、かつおきんや氏は聴衆に問いかけ提言する。

「私たち現在に生きる者として、これらの貴重な文化遺産をどのような形で受けとめ、未来に継承してゆけばいいのか? 四百年前からそうであったように、金沢市民の生活に密着させて共存してゆくの(例えば辰巳用水は今でも金沢市の防火用水になり得る)、あるいは行政的発想で、単なる特別の観光資源として保存・利用してゆくの(例えば考えたいと思います)参加者アンケートでは、今

保団連出版部会が金沢で

初めて地方開催 文化講演会も兼ねる

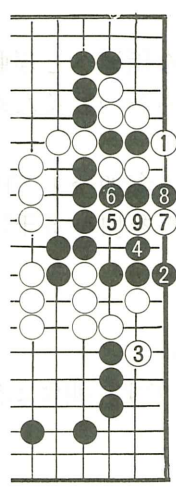
第三十三回総会方針に基づいての四大目標・五重点課題を視野に入れて、出版部方針に従って、『月刊保団連』が編集されているかの確認と、前半期各号の評価について討議した。後半期の各号の企画については、すでに呈示された案に沿って検討を加えた。

「特集」は、九月では介護、十月では若手開業医、十一月号では審査・指導・監査、十二月号では医薬品が予定されている。

黄色いハガキを ご活用下さい

保険医協会では、審査改善運動の一つとして黄色いハガキ運動を実施しています。 どんどんご意見をお寄せ下さい。

囲碁解答



現時点では白1と抜いて上方の味を消して置くのが良いでしょう。黒が2以下と動いて来ても生きはありません。

まであまり知らなかった郷土史を聞いて勉強になった「運動」の一助になったと思われ「文化遺産」についての考えが、



入所者と一緒にハイキング
(左から2人目が大橋南美さん)

障害者施設

シリーズ⑤

重症心身障害児施設

社会福祉法人 松原愛育会
石川療育センター

〒920-11 金沢市上中町イ67-2
TEL 0762 (29) 3033

昨年8月に移転 施設・内容とも充実

施設職員 大橋 南美

重症心身障害児施設石川療育センターは、昨年八月一日に住み慣れた城南から現在の上中町に引っ越し、名称も愛育児童病院から変更となりました。一九六八年の開所当時、子供だった人たちが平均年齢が三十三歳を超え、児童病院という名前が実際と合わなくなってきたことも名称変更の理由の一つです。もちろん全員が開所当時からの人たちというわけではありませんが、高齢化は多くの重症心身障害児施設に見られる一つの現象です。

重症心身障害児施設とは児童福祉法に基づく児童福祉施設ですが、十八歳を超えても障害内容が同じであれば児者一貫で年令を問わないことになっているため、年令にも幅があるわけです。ちなみに当センターの最低年令十二歳、最高年令は終戦の年に生まれた五十歳の方です。

重症心身障害児施設にはもう一つの性格があります。それは、医療法に基づく病院であるということです。児童福祉施設であると共に病院であるというこの二面性が大きな特徴と云えます。当センターでは、移転を機に設備の充実を図り、医療を柱とした相談、治療、訓練、デイ・ケア・サービ

スなど、多様化するニーズに添えていきたいと思っています。さて、ここに入所している人たちと付き合っ

地元の先生と顔なじみ 暖かい受け入れに感謝

物事をうまく判断できず、自らのことを訴えるのが難しい人たちが、正確には訴えているのだけれど相手に伝わりにくいということもありません。これは、何も障害を持った人たちに限ったことではありません。乳児期の赤ちゃん、お年寄り、重症の患者さんなど、その状況により、だれにでも起こりうる場面であると感じます。この場合の大きな問題は「嫌だ」ということ「こうして欲しい」ということが相手に伝わりにくく、それが相手にはっきり伝わらな

いとということでは、側にいる者に何が求められるか。常に自分自身の課題として感じることが幾つかあります。まずは相手の立場に立つて考えること。当たり前前のことなのですが、なかなかできそうではない、して欲しいのでない、いことのようにも思います。「もしも自分だったら...」「自分の子供だったら...」「自分の親だったら...」と考えてみると意外と目から鱗が落ちるように気が付くこともあります。そしてもう一つ、側にいる者が必ずしも最大の理解者とは言えない場合があります。施設というある意味での閉鎖社会で感覚麻痺に陥りやすいことを常に認識するということ。これは、この人たちの人権をどう守っていくかに関わってくる問題です。個人のみならず、施設全体がいろいろな場面を通してチェック機能を持つ姿勢が問われていると言えます。最後にになりましたが、歯科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科、外科などは愛育児童病院時代から開業医の先生方にお世話になっていま

保団連第13回「病院・有床診療所問題交流集会」

- 日時 1995年 8月26日(土) 18時～21時
8月27日(日) 10時～16時
- 会場 三省堂文化会館 (東京都新宿区西新宿4-15-3 電話03-3320-2611)
- プログラム
 - 【第一日(26日・土)】18:00～21:00
18:00～19:00 基調提案「入院医療施設をめぐる問題と具体的課題」
19:00～21:00 「付添看護問題市民シンポジウム」
付添廃止について、医療機関や患者、行政の立場から問題を明らかにし、付添廃止期間延長などの運動の結節点とする。
 - 【第二日(27日・日)】10:00～16:00
10:00～12:00 (全体会議)
記念講演 「厚生省が考える入院医療政策」 皆川尚史氏 (厚生省大臣官房調査室長)
13:00～16:00 (分散会)
学習会 「事後調査、指導・監査に強い病院・有床診へ」
事後調査は、個々の場での確な対応をしなければ、より高次の指導へと連動してしまう。これらの基本的ルールをわかりやすく解説し、対応力をつけるための学習会を開催する。
- 参加費 ①院長・医師 両日参加→1万円 26日のみ参加→千円 27日のみ参加→1万円
②その他 両日参加→5千円 26日のみ参加→千円 27日のみ参加→5千円
*26日の夕食は各自でおとりください。
*27日の昼食は準備致します。
- 宿泊場所 新宿ニューシティホテル (東京都新宿区西新宿4-31-1 電話03-3375-6511)
*シングル9700円 ツイン17600円 (いずれも税金・サービス料込みです。朝食は別)
*お支払いは、各自払いをお願いします。
- 申込締切 8月10日(木) までに保険医協会までお申し込みください。

ます。もう顔なじみといった感じで、毎週先生の所へ行くのが楽しみな人たちもいます。また、慣れない職員が介助方法を教えて頂いている場合もあります。玄関や外までも響きわたる大声には職員の方がひやひやしますが、暖かく受け入れ



ロッジのような診療所の前で、スタッフのみなさんと

浦田哲郎

先生の巻

石川郡河内村字福岡6番地

うらた医院



70

素敵なクリニックが増えつつある昨今ですが、今回お訪ねしました「うらた医院」は自然の中にたたくロジックという表現がぴったりの診療所。芝生の庭に面してテラスもあります。先生の長年の夢の結晶とか。いろいろ伺ってみました。

アウトドアライフの希望がかなって

—本当に田園の真ん中ですね。風がとってもさわやかでそれにこんなに蛙の音が聞こえるなんて。思わず子供の頃を思い出して懐かしな気持ちになりました。そうですね。本当に周りに自然がいっぱいの田舎です。この場所を選んだいきさつはいろいろあるのですが、一言で言うて自然が好き

に、自然の中で暮らすなら山小屋風の家で思っていましたので、医院を建てるときは徹底的に夢にこだわりました。その結果がご覧のようになったわけです。—玄関の電灯、医院の看板、家具そして廊下や部屋の腰板、ドアに至るまで随分とこだわりがみえますね。素晴らしいセンスに本当に感心しました。ところで先生の経歴ですが、はじめは医学部じゃなかったとか。



訪問診療・看護専用車

—そうなんです、実は経済学部に入りましたが途中から医学部に進路を変更したんです。現在富山の魚津に産婦人科を開設している兄に進められて金沢医科大学に入學しました。卒業後、老年病科に入局し、次いで救命救急科を経て一年半前に現在の地に開業しました。

馬で往診する父を見て 開業一直線

—開業しようと思ったきっかけは？

—考えたからです。まさに開業一直線ですね。

—きつかけもなにも、父親を見ていて医者は開業するものだと思っていました。父親は田舎の村の小さな診療所からスタートして、後に魚津に病院をつくりました。馬に乗って往診する田舎医者だったところからずっと父親の姿を見てきました。その後ろ姿に非常に強い影響を受けたのだと思います。医者を目指した時点から開業を考えていました。卒業後に老年病科と救命救急科を研修したのも開業に必要と

—これでやっと夢に一步近づいたなと思った矢先、今度は父親が倒れましてね、急ぎよ魚津の病院の代診をしなければならぬことになりました。設計はお預け、医院建築工事の開始が一年延びることになってしまっ

—そんなわけで、ようやく医院が完成したときには感慨無量でした。

—どんな医療をめざしていますか

—父親の時代に見られたような、人と人の付き合いが基盤にあるそんな地域医療が目標ですね。どこそここの家のとうちゃんも、あんなちゃんも、ばあちゃんもみんな知っているし、プライマリケアであれば外科でも内科でも何でも診る。何でも相談に乗る。そう言った、一種のファミリーに近い関係を作りたいですね。その為には何と言っても在宅医療を精力的に押し進めていかなければと思っています。—実際に開業して、いかがでしたか。

—診療の余暇をどう過ごしていますか、多趣味と聞きましたか。

—学生時代はスキーに明け暮れました。インターハイで十五位になり、スイスへ遠征したこともありまして。それを知った河内村のスキー連盟からジュニアの指導を頼まれお手伝いしています。ついでにスキー場のパトロールもやったりして冬は楽しんで

スキー、ソフトボール、ハイレジャーダビッドソン

—日々を過ごしています。夏は村のソフトボールチームに加わって練習に汗を流しています。週一回ナイター練習でノックの嵐ですよ。もともと野球はたいへん好きなのでしたし、どっちかと言うとタフですから練習が楽しくて。郡体、県体を目指して頑張っています。実はもう一つ内緒の趣味があるんですが、3年前に

—日なたぼっこをしていることもあります。本当に素朴でのんびりとしています。しかし、今まで無医村だったためか、医者のかかり方がばらばらなんです。然るべき病院を紹介しても行ってくれない、かと思うと好

—きなときに別の医療機関に受診してしまふ。時間と医療費のむだ使いをしている。解決するには、患者さんの教育と病診・診診連携の確立が、まず必要だとおもっています

—友達があつたのでハイレジャーダビッドソン(アメリカ製の大型オートバイ)を購入しまして、休日に手取溪谷あたりまでドーンとツーリングするのが最高の楽しみです。かないそうもない夢ですがこれで往診できたらいい...。いつのことでしょうかね(笑)。

第14回 「高齢社会をよくする女性の会」全国大会

～カイロ・北京 そして金沢へ～

「いのち」を守る女性のネットワーク シンポジウム in 金沢

とき 9月9日(土)～10日(日)

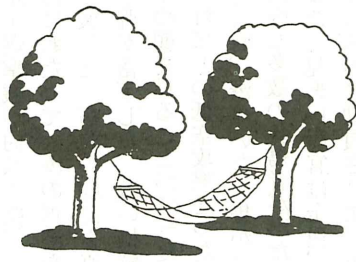
ところ 金沢市観光会館

◆主催 「高齢社会をよくする女性の会」(代表 樋口恵子) 第14回「高齢社会をよくする女性の会」全国大会開催実行委員会(代表 梶井幸代)

◆後援 石川県・金沢市

◎詳しくは本紙同封の案内チラシをごらんください。

特別企画



戦後

(6面の続き)

働が毎日続いた。戦闘機のエンジン部品を作る作業であることは知っていたが、思考はそれから先に進まなかった。その部品を付けた飛行機が果たして実戦に使われるのか、搭乗員がどこで戦いあるいは死ぬのか、想像してみることはなかった。

千天のもとに並んで、終戦の詔勅なる甲高い声を耳にした時、自分はこれからどうするのか、ましてや日本の国がどうなるのか考えようとしなかった。開き直っていたのか、虚脱感だったのか、あるいは体力消耗のためだったのか、今や記憶にない。しかしなぜか、無事このまま故郷に帰って進

学の道に復帰するであろうとの予感があった。それから三年後の夏である。楽しかったはずの川釣り、一転して生死の境をさまよう始末となった。当時は赤痢菌が猛威を振っていた。国立病院伝染病棟で入院二カ月、両ももにリソール液五百ミリリットルの皮下注百回を受けた。主治医のI先生がストレプトマイシンが赤痢菌に有効であることを文献で知ったことが、私の命を救ってくれた。ストマイは、ペニシリンに次いで輸入品が使われ始めたところで、随分と高価だったと思うが、親からは聞いていない。このような虚脱症候群を生きたびた私は今、恩返し之余生である。

戦後五十年の二題

高松弘明 (金沢市・内科)

生命のダイコン

木枯らしの吹く年の暮れになると、決まって見られる風景があった。リヤカーや荷車に大根、白菜、菜っ葉や芋を山と積んで、時には数匹の河北潟のフナをぶらさげて、みぞれにあかぎれた手をさすり、白い息を吐きながら村人たちが順番に玄関へ現われたのである。食物の不自由な時代だったから、たいへん有り難かったのだが、実は、盆暮れにまとめて払う医療費の工面がつかず、代わりに持つて

リップしつつあるのではなからうか。

医療費代わりの大根が、再び目の前に積み重ねられては困るのである。

50年前のオウム?

六月も中旬の夕食前の出来事であった。診察も終わりにやれやれと居間にたどりついて、テレビをつける。相変わらず「オウム」の映像が延々と続く。毒ガス、リンチ、虐殺、無差別殺人などの物騒な言葉が、これでもかこれでもかと続くうちに隣の部屋で夕食となつた。聞くともなく聞かぬともなく音声だけが漂ってくる。

今日の「オウム」は何か新しい事件が起きたのか長い。再び、強烈な毒ガス製造、大量無差別虐殺、監禁致死、裏切り者の投獄、拷問などのいささかどぎつい言語が耳に入ってきた。もうこれまでとスイッチを切りに行つて驚いた。なんと画面は白黒に変わって、昔々あるところを見たことがある軍服に身を包んだ兵隊さんが、鉄砲担いで走っているではないか。なるほど、五十年前、日本という国の軍隊のしでかしていた話なのであった。映像がなければ、五十年の歳月はなかったのである。



戦時下の登谷栄作氏

戦時下の私の青春

登谷栄作 (松任市・内科)

一九四二年(昭和十七年)、カナルの撤退作戦に参加し、戦雲急を告ぐる時私は旧海軍の医学学校に入校した。その地を転戦し、一九四四年末に九死に一生を得て内地に帰還した。そして八月十五

口の終戦を迎えた時、初めて命の尊さを知った。

戦後、一部のお偉い方は戦記物などを出版し、大儲けして政界に乗り出した厚かましい者もいたが、多くの戦争体験者は沈黙し、ただただ食糧を求めて生きるのに精一杯であった。

そして戦争体験者が人生の終末に近付いた今、われわれにとつてかけがえのない可惜(あたり)「青春時代が、戦争という特別な時代であったにせよ、今の若者のそれより非人道的でつまらぬ時代であったとは思いたくない。多くの青春に背いて散った若者を忍び、経済大国として温室に育った若者と思ひ合わせる時、いかにも割り切れぬ気持ちがある。私一人ではあるまい。

一九八七年、INF(中距離核ミサイル)調印以来、START I、START IIと核は削減されつつある反面、SDI(抑止力)が平和を維持するとか、EP T(核不拡散条約)の無期限延長、さらに中国の核実験に続き、フランスが核実験を行うと言う。まさしく、いつまで続く泥(ぬかるみ)ぞと言いたくなる。

戦争体験者であり、さらに医師として二度と再び戦争という愚かな大量殺人行為を繰り返すまいとの願いが私をして反核平和運動へと駆りたてたのであろう。命を尊ぶ医師の使命として反核運動に徹し、人間が人間を診る人間らしい医師であらねばと思わずにはいら

戦後五十年

高橋サブロー (金沢市・耳鼻咽喉科)

終戦の時、私は国民学校の三年生だった。住んでいた街は空襲に遭い、その日、母は兄二人を家に残し、妹を乳母車に乗せ、私を連れて、郊外にある親戚の家に辿り着いた。

夜になつても空襲は続いた。この親戚の家の裏にある堤防に高射砲が七基ほど据え置かれ、星空の中の爆撃機B29を狙って発砲していたが、どの程度敵機に命中していたかは私は知らない。親子三人は防空頭巾を被って、川辺に避難した。母は両足を川の水に浸していた。

こんな激動の時代に少年期を過ごした世代も、間もなく還暦を迎えようとしている。

爆音を発して飛来する爆撃機地面を揺るがす轟音の高射砲焼夷弾が空からヒューヒューと落下する音は悲鳴にも聞こえてくる

パチパチと燃え盛る火焰は大蛇が群れをなして街中を飲み込むばかり

この時
兄貴は町内の防火活動で隣保班に与し燃え上がる家から父の位牌を取り出し両手・両耳・願面に大火傷を負っていた

生き地獄から無我無中で逃げ惑った人もいた志半ばにして青春が頓座した犠牲者達もいた口元まで覆ったケロイドは兄を別人にした熊手のような手でペンを握って戦後五十年耳なし芳一となって神仏に縋る毎日だった拭いきれない忌まわしい戦慄の戦後五十年無惨な傷跡を身体に覆いながら引き擦った

会員投稿

(8面へ続く)

(7面の続き)

「核と人類は絶対共存できない」、核廃絶なくして世界平和はありえないと確信

ペニシリンの思い出

石田 直行 (金沢市・外科)

五十年前の八月、私は大湊海軍病院で勤務していた。何日だったか、アメリカの艦上爆撃機が約八十機、二波にわたって大湊の軍港を空襲した。病院の庭にも直撃弾が落下した。敵の操縦士の顔を見ることができた。それほどの低空攻撃だった。その時、港にいた何隻かは被弾し多数の負傷者が出た。私たち見習い尉官は全員、患者収容に動員された。魚雷艇に乗り、海防艦や輸送船に梯子を使って上がり、一人ひとり負傷者を毛布でくるみ、小舟に降ろした。ほとんどが水蒸気による熱傷だった。病院へ収容した患者数は三百五十人に達した。ところが医療機材がなく、竹のピンセットと石炭酸を浸した綿球と紙の代用ガーゼで処置しなければならなかった。

創はすべて化膿しているのが普通だった。そのころ、ペニシリン(碧素と言っていた)を病院内で作り、患者に使ったところが、うじ虫が這ったりしていた創までもが、翌日には全くきれいになっていたので驚いたものであった。ペニシ

し老骨に鞭打って被爆五十年を意義あるものにしたいと願うこと切なるものがある。

葡萄糖を入れて沸騰し、濾正に死の山だ。私共もドラム缶一本の水も飲み干し、トラックはエンコして今まで見て来た死体と同じ運命をたどるに違いない極限であった。夜は所々でリンが燃える。谷底では恐らく虎であろう、竹を踏みしだく音が響く。

今思い出すだけで身の毛がよだち、吐き気がする。その後で聞いたが、戦前ミヤンマーでは米の売買の権利はインド人が握っていたが、日本軍が入ったこの権利をビルマ人に渡したため、インド人は母国に逃げ出したのだと聞いた。戦争はこうして今までの商習慣を無視したため、無意の住民まで死に追いやることになったのだ。戦争は絶対にしてはならぬ。

アラカンの悲劇

小森 弘 (金沢市・耳鼻咽喉科)

ミヤンマーの大河イラワジの西にアラカン山脈が南北に走り、その西には細い平野があつてインド洋に面している。この平野を北上するとインドに入れる。主戦場(インパール)を離れていたので日本軍はこのアキヤブ飛行場を手に入れ、航空基地にするため整備の

反省をふまえて 平和への道を

勝木 育夫 (小松市・耳鼻咽喉科)

戦争が終わった時は、私は中学四年生、授業もなく、工場で旋盤を使って飛行機の部品を作っていた。そのころはすっかり今流行のマインド・コントロールされてしまっていて、日本の国は必ず勝つものと思われていた。

聖戦と言われていたし、日本の軍隊は武士道に則つて、正々堂々と戦っているものと思われていた。それが後になって朝鮮や中国で、あるいは東南アジアで大虐殺を行うなど、残虐

の限りを尽くしたと知らされて、戦争というものの狂気を思い知らされたものである。敗戦を終戦と言い換えて負け惜しみしてみたら、天と地とマッカーサーが並んだ写真で、事実が明瞭に私たちの前に示された。いまだにそれは侵略戦争だと認めたくない人々がいて、国会決議が曖昧なものとなってしまった。私の家のすぐ近所に、自分の死が聖なる戦いの勝利につながると思つて、特攻

IPPNWドイツ支部によると、五月三十一日開かれた第九十八回ドイツ医師会総会が「すべての核兵器の廃絶を」求める決議を採択したと伝えられました。三十二万七千人の医師を代表するドイツ医師会の総会が核兵器廃絶の要求を決議したのは初めてのことです。

ドイツ医師会が核兵器廃絶を要求

ドイツ医師会が核兵器廃絶を要求

シユツガルトで開催された第九十八回ドイツ医師会総会は、すべての核兵器の廃絶を自分たちの政治的責務と位置付けるよう要求した。ドイツ

シユツガルトで開催された第九十八回ドイツ医師会総会は、すべての核兵器の廃絶を自分たちの政治的責務と位置付けるよう要求した。ドイツ

し、放射線障害で四十万人の死を引き起こしてから五十年目を迎える。ドイツ医師会は今、生命と健康に対する核の脅威に對して立ち上がったのである。

健康構の後を継いだのである。今日の世界には、依然として四万八千発を超える核弾頭が存在している。これらの弾頭は、ヒロシ

マ型原爆五万発分に等しい脅威的な破壊力を有している。一九四五年八月六日にヒロシマ上空で炸裂した核爆弾はTNT火薬十三トンの破壊力を持つていた。プルトニウムでグレードアップされた核兵器は、三百六十トン以上が世界に蓄積されている。偶発であろうと戦争であろうと、あるいはテロ行為であろうと、核爆発の危険を次の歴史に残してはならない。すべての核兵器を世界から廃絶するという要求を掲げること、ドイツの医師たちは自分たちの呼び掛けに応じていた。よく国民に手本を示した。

医師会がドイツ連邦共和国の医師三十万人全員を代表している。今年は原子爆弾がヒロシマとナガサキに投下されて、十万人を瞬時に殺傷

ある。ドイツの医師たちは、ハーグにある国際司法裁判所に核兵器の違法性についての勧告的意見を求めているWHO(国際保

持っていた。プルトニウムでグレードアップされた核兵器は、三百六十トン以上が世界に蓄積されている。偶発であろうと戦争であろうと、あるいはテロ行為であろうと、核爆発の危険を次の歴史に残してはならない。すべての核兵器を世界から廃絶するという要求を掲げること、ドイツの医師たちは自分たちの呼び掛けに応じていた。よく国民に手本を示した。

保険医新聞に 投稿をお寄せ下さい

先生方の身近な機関紙として、投稿をお待ちしています。内容は何でも結構です。よろしく願います。(編集部)

《訂正とお詫び》

本紙7月号7面掲載の障害者施設シリーズ④で、次の誤りがありました。訂正しお詫びいたします。
●ワークハウスつばさの電話番号
《誤》07619(3)0550
《正》0761(23)7232
●写真説明の指導員のお名前(ふりがな)
《誤》(しととみこ)
《正》(しのぼりとみこ)

書籍案内

ザ・酷税局 Part II 清水はじめ著 大阪税制研究所編
ルールなき税務署と納税者番号制の恐怖

本書は現在の税務行政の腐敗と強権行政の実態を告発し、その背景を分析し、そして大蔵省、国税庁が狙う国民監視社会のおそろべき危険性を警告し、最後に、税務行政の民主化への提言を行うものである。

ザ酷税局 Part II
ルールなき税務署と納税者番号制の恐怖
読みながら、怒りを抑えることができなかった。
B6変形版 256頁
定価1500円(税込) (送料310円)
一申込みは協会まで

石川県医事文化史跡めぐり

● 4 ●

金沢藩出仕一外科医の墓所探訪記

—「下田元寿之墓」 「羽咋郡志雄町、徳蓮寺」

多留淳文 (日本医史学会評議員
金沢市・内科)

近世から近代の過渡期、幕末維新の動乱は医事文化史上も興味深い。この期の金沢藩に出仕した医師名簿は、一八六一年(文久初年)ごろの『加賀藩組分侍帳』(金沢市立図書館蔵)と一八六九年(明治二年)の『御医師名列』(寺畑喜朔『北陸医史』八巻一、一八九七)が典拠である。この二種の名簿を頼りに、一八七〇年(明治三年)藩庁へ提出の『先祖由一緒并類帳』(金沢市立図書館蔵)に



下田元寿の墓
徳蓮寺住職(左)と多留淳文先生

「治二年」の『御医師名列』(寺畑喜朔『北陸医史』八巻一、一八九七)が典拠である。この二種の名簿を頼りに、一八七〇年(明治三年)藩庁へ提出の『先祖由一緒并類帳』(金沢市立図書館蔵)に

「治二年」の『御医師名列』(寺畑喜朔『北陸医史』八巻一、一八九七)が典拠である。この二種の名簿を頼りに、一八七〇年(明治三年)藩庁へ提出の『先祖由一緒并類帳』(金沢市立図書館蔵)に

「治二年」の『御医師名列』(寺畑喜朔『北陸医史』八巻一、一八九七)が典拠である。この二種の名簿を頼りに、一八七〇年(明治三年)藩庁へ提出の『先祖由一緒并類帳』(金沢市立図書館蔵)に

「治二年」の『御医師名列』(寺畑喜朔『北陸医史』八巻一、一八九七)が典拠である。この二種の名簿を頼りに、一八七〇年(明治三年)藩庁へ提出の『先祖由一緒并類帳』(金沢市立図書館蔵)に

丹美啓、羽咋郡徳蓮寺、名列には「御外科、下田京介、照円寺、堀川餌指町」とある。照円寺(金沢市笠市町一〇二)を訪ねたが、下田家の墓もなく何ら手掛かりは得られなかった。一九七〇年(明治三年)、下田京介自筆の由緒帳にも丹那寺は羽咋郡美砂村徳蓮寺とある。『角川日本地名辞典』やNTTの電話帳によつて徳蓮寺は志雄町見砂に所在することが分かった。住職に照会したところ、元寿の墓と牌文があるとの回答を得て、この春、徳蓮寺(真宗本願寺派)を探訪した。バスも通っていない山奥だが、

昔は水見と羽咋を結ぶ主要道に見砂は面していたという。藤原憲雄住職のご好意で、寺の裏庭にある下田元寿の墓に参詣し、碑文を拝読することができた。碑文によると、先祖は江戸の浪人でのと羽咋吉野谷に移住、高岡の町外科医を養子にして、以後高岡で開業したが、元寿の代から金沢に転居した。元寿は町医者であったが、名声を博し、藩医に抜擢されたと記されている。一七五九年(宝暦九年)没。子孫は関東大震災で全滅し、何も残っていない。

サイコロジックショート・ショート

マインドコントロール(その3)

カルト・マインド・コントロール

〇・ひろし

この二カ月、テレビは連日オウム事件で賑わっています。「どうしてこんなことになったのか」とか「高学歴の若者が、なぜ、あの狂信的な信者になったのか」と不思議がられています。その根本原因からいって思われているのが、『カルト・マインド・コントロール』です。カルトという考え方は決して新しいものではありません。歴史的にはカリスマ的なリーダーのもとに熱狂的な信者集団ができた例は少なくありません。しかし、現代カルトのあるものは、心理学的なテクニックを使って、信者たちの意志を弱め、思想と感情をコントロールしようとしています。これが『カルト・マインド・コントロール』です。

トロールです。しかし、この場合、本人が内容や目的を理解しており、自分の意志で受けています。これに対して、カルト・マインド・コントロールでは、本人の意志に関係なく、ある考え方を信じさせてしまい、行動の自由まで奪ってしまいます。このカルト・マインド・コントロールの特徴は①内容や方法を本人に知らせない、②本人の選択の意志を無視する、③本人に、マインド・コントロールを受けていることを意識させないで、コントロールの意のままに行動させるということです。

「(一)勧誘」もっとも多いのは社会調査のアンケートや映画会にしました。宗教カルトの元信者を対象に研究したものを参考にし、洗脳や強制的説得と同じ意味で用いられることがあります。本来は、区別されています。洗脳や強制的説得は、身体的拘禁や拷問を用いて相手の態度を変えさせるのに対し、『カルト・マインド・コントロール』では言語的コミュニケーションだけで相手进行操作することを言います。しかし、この度のオウム事件では、洗脳や強制的説得も行われていた様子です。

「(二)勧誘」もっとも多いのは社会調査のアンケートや映画会にしました。宗教カルトの元信者を対象に研究したものを参考にし、洗脳や強制的説得と同じ意味で用いられることがあります。本来は、区別されています。洗脳や強制的説得は、身体的拘禁や拷問を用いて相手の態度を変えさせるのに対し、『カルト・マインド・コントロール』では言語的コミュニケーションだけで相手进行操作することを言います。しかし、この度のオウム事件では、洗脳や強制的説得も行われていた様子です。

事務局休務のご案内

お盆休みのため、左記のとおり事務局を休務致します。

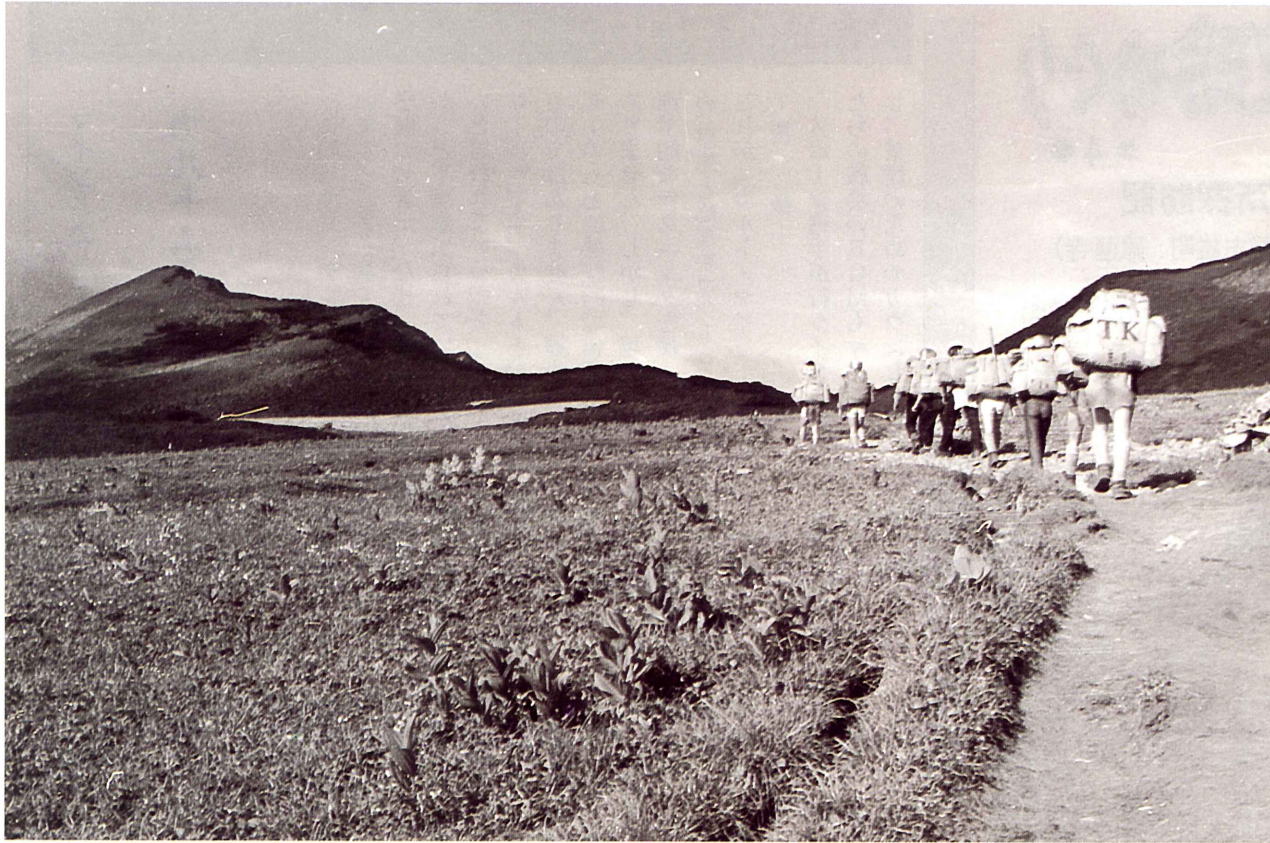
8月14日(月)～8月17日(木)

碁

出題者 向井富治 (金沢市・内科)

七段

近沢茂夫五段と乗岡栄一六段の対局に現れました。白番でどう打つのが良いでしょうか。(解答3面)



夏の山道

セピア色の写真に封じ込められた青春の思い出。
 手をとるたびに胸がキュツとなる。
 失われたものの多さよ、忘れてしまったことの限りなさよ。
 多くの犠牲の上に築かれた今の人生をたずさえて、
 ふたたびあの夏の山道を行くとき、
 自分はいったい何を思うのだろうか。

北山吉明 (金沢市・整・形・皮)

会員投稿



5月の連休、友人夫妻と北京郊外の頤和園を見学した。朝、少し早かったためか、昆明湖を渡って石舫へ行く遊覧船は、客数が揃わず、出帆しないという。交渉したら、なんと200元(2,200円)で渡してくれるという。大きな屋形船(写真)にたった4人で、湖上から天下の名勝頤和園の佳景を満喫。往時の西太后もかくのごとしかと……。

円高に溺れた日本人観光客 (内科・53歳)

連休の北京で



初夏の菖蒲園

最近、天気の良い日には早朝の散歩を楽しんでいます。月1回の町内歩こう会にも欠かさず参加しており、この写真は6月に卯辰山の菖蒲園まで足を伸ばしたとき一枚です。

朝早くの散歩は気持ちの良いものです。

後藤田 博之 (金沢市・赤十字血液センター)

平和への行進

この日、私も平和への願いを込めて、約1時間にわたり小松市内を歩きました。その夜、原水爆禁止こまつ協議会が結成されました。そして、8月には小松市役所ロビーにて反核平和パネル展示を行うことを決めました。フランスの核実験中止が、当面の大きな目標です。

帯 刀 裕 之 (小松市・内科)

